



雨の日の動物園へようこそ

前日も、偶然雨の話題から入ってしまいましたが、いよいよ関東地方も本格的な梅雨入りです。ギラギラ輝く太陽の季節の前には必ず通る道、とわかっていてもやはりジメジメするのは嫌なものです。

動物園でも、朝から雨が降っているとお客さんはめっきり少なくなります。

梅雨時の今は本当に心も晴れません。でも、そんな雨の動物園でも動物たちは元気に活動しています。

よく問い合わせがあるのは、雨だと動物は出してないの？、という質問です。まあ、雨だと動物園には行かないのですから実際どうなっているかはわからなくて当然ですね。

これにはきちんとお答えしましょう。動物は出しています。

まあ、余程の荒天でない限り、ということではありますが。

野生を考えてみればわかりますが、動物には当然家はありません。

もちろん外敵などから身を隠すためや眠る場所として、自分の縄張りの中にねぐらはあるでしょうが、雨が降ったからといって何日も家でじっとしてるといったことはありません。

彼らには生きるための採食行動という大事な仕事があるのです。

雨の日だろうがなんだろうが生きていかななくてはなりません。

太古の昔（同じ意味？）から、過酷な大自然の中で彼らはそうやって生き抜いてきました。特に哺乳類は、そのために、外気温の変動に左右されない恒温動物としての道を選び、また強い日光や寒さ、雨などから体を保護できるよう生まれたときから体毛に覆われているのです。

多少の雨は大丈夫、というか熱帯モンスーンにすむ動物たちにとって日本の雨なんか目じゃないかもしれません。

また動物園では、夜間入っていた寢室を掃除するという飼育の仕事があります。

そのためには、どうしても一度外へ出てもらう必要もあります。

雨の中だと、ふだんゆったりしているクマなんかもはしゃぎまわったりしています。

特に暑くて湿度の高い夏場などはシャワー代わりになってゾウなども喜んでいきます（と思います）。

また、たとえ外に出ていなくても、屋内観覧室がある獣舎は中から見えるようになっています。そして何よりもゆったり観覧できます（人がいない）。

静かな園内を相合傘でしっぽりデート、なんてのもいいですよ。

そんなわけで、雨の日の動物園、一度訪れてみてください。

（平成21年6月11日 園長 生江信孝）



雨でも首を長くして待つキリン



室内のカバさん



お部屋で遊ぶチンパンジー



雨にけむる鮮やかフラミンゴ

2009年6月11日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)